

もっと深掘り！ Git&GitHub

ご購入はこちら

第6回 効率的な共同開発に便利！IssuesとPull Request

松岡 貴志, 高瀬 英希

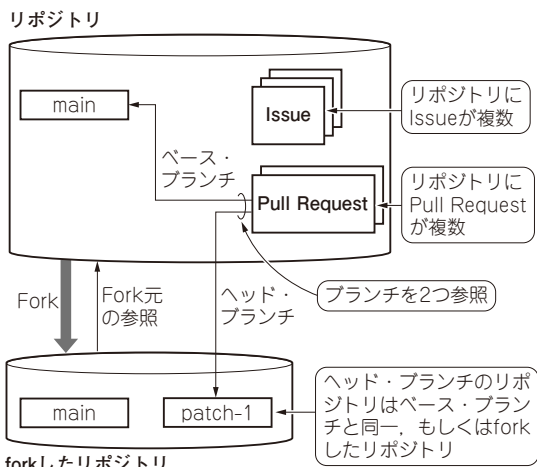


図1 リポジトリとGitHubのIssuesとPull Requestの関係

本連載では、Git/GitHubを継続的に安心して使いこなせるようになるための機能やテクニックを解説しています。

今回は、GitHubでの共同開発を効率化する機能であるIssuesとPull Requestを紹介します。Issuesはタスクの管理や見つかったバグの報告などに用いられ、Pull Requestは新機能の追加の提案や修正したコードのレビューなどに用いられます。これらはGitHubで特によく使われる機能です。以降では、まずは、Issueの参照とコメントの追加、Issueの作成を説明します。次に、Pull Requestの作成を解説します。そして、IssueやPull Requestの定型文を用意する機能であるテンプレートについて説明します。最後に、オープンソース・コミュニティのプロジェクトのGitHubでIssuesやPull Requestを作成する際の心構え的な話を添えたいと思います。

IssuesとPull Requestの概要

複数人のチームで進めるソフトウェア開発のプロジェクトを想像してみます。ソフトウェア開発において、チームが共有すべきものはコードだけではなく

せん。各メンバの気づきやアイディア、実装方針に関する議論など、コミュニケーションそのものが成果物の質を大きく左右します。あるいは、個人で開発を進めるプロジェクトを想像してみます。開発対象のソフトウェアに不具合を見つけたものの、ちょっと今すぐには取りかかれないことがあるかもしれません。ソフトウェアを改善するためのアイディアをメモしておきたいこともあるでしょう。

GitHubでは、こうしたやり取りを効率よく、かつ透明性を保ちながら進めるための強力な機能として図1のIssuesとPull Requestを提供しています。

● Issuesが役立つシーン

Issuesは、ソフトウェア開発における課題やアイディア、バグ、提案などを記録して共有し、チームで議論しながら解決に向けて進めるための仕組みです。Issueはそれぞれを記録した単票であり、Issuesはそれらを扱う機能と捉えることができます。

● Pull Requestが役立つシーン

Pull Requestは、ソースコードやドキュメントの変更を提案するための仕組みです。

IssueとPull Requestは、GitHubのリポジトリ単位で作成されます。それぞれ複数作成できますが、まとめて作成順に#xxの形式で連番が振られていきます。

Issuesの使い方

開発中にふと浮かんだ良いアイディアや気づいたバグを、後で思い出そうとしても、うまく思い出せないことはありませんか。Issuesは、そうした小さな気づきやアイディアを記録しておける便利な仕組みです。思いついたことをすぐ書き留めておくことで、後から見直して活用することができます。

加えて、Issuesはクラウドで共有されているので、チーム・メンバやユーザとコメントを通じて自由に意見を出し合い、課題やアイディアについて議論を深めることができます。やり取りは全て記録されるため、